

土を喰う犬

五味靖嘉

1993年10月生まれの雌犬「フウ」と呼んでいる当年12歳のこの犬は、ここまで医者知らずで全てにおいて健康である。寄る年波には勝てず、近頃は視力が衰え、眼球が濁り始めた。しかし、嗅覚・聴力は一番で、何事もいち早く感じ取るという鋭敏さを備えてる。言うまでもなく皮膚病など一度も経験がないし、蚤やダニ、寄生虫などで飼い主を困らせた事もない。



写真2「土を食べた痕跡」

前脚で特定の場所の粘土質を選び、掘りながら削り取り、その浮いた土を食べる。写真には同じ方向に爪の線条痕が見える。



写真1 上:ごく普通の柴犬に見える。

下:誰も見ていないと、驚かされる行動をする。

薬物というものを必要としないその犬が、繋がれた周辺の粘土質の鉄分が含まれてる「土」を定期的に食するのである。

青黒おびた色素の排泄物が残るので、その土を食べた証となる。(写真2)「土を食べた痕跡」参照)「犬が土を喰う」という文献上の存在は、不勉強であるからしてまだその記述が見当たらない。何方かご存じでしたらご教示ください。

床がコンクリートの環境に繋がると、その周辺の条件を巧みに利用して遊ぶのが、他の犬と比較して得意である。ある時、引き綱をつけてフェンスをよじ登り、多くの仲間の犬たちに誇示し、それを楽しむような得意な様子さえ伺えた。(2005. 6. 10記)